

海岸

とても海上に浮かんでいるとは思えぬ遠くの船
太陽をわずかにかすめる雲からの光は
放射状の極薄のヴェールとしてはっきり見える

遥か彼方から架かる輝く橋
それは明滅する無数の十字架でできている
あるいは白金の羽トンボの集合体

橋を渡る少女は背を屈めて貝を探る
その黒いシルエットは金環で縁取られ
たゆとう波音は語る 「いつ迄も、いつ迄も・・・」

(1982.10.31)